

だんじり祭のほか、「商工会納涼フェスティバル」「みはらおもろいデー」や「農業祭」、また、住民参加のスポーツ祭典「町長杯争奪大会」や文化の祭典「みはら芸術展」「みはら公民館まつり&子どもフェスタ」など、さまざまな行事を通して人と人とのふれあい、地域の結びつきが深められています。

交流の輪が広がり

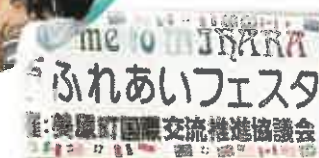
愛着のもてるまちをめざして



150鉢の菊で彩られる菊まつりと老人のつどい



人権の大切さ学ぶ機会に



在住の外国人の方をはじめ、
さまざまな国の人たちと交流を図る
美原ふれあいフェスタ



● 養生



● 營生新田



井 果

美原町の
たんじり



● 阿 弥

水と緑を活かし快適に暮らせる 基盤の整ったまちをめざして

四季折々の自然や潤いの池など、水と緑に囲まれた美原町。環境。大阪緑の百選に選ばれた緑豊かな「舟渡池公園」をはじめ、歴史的遺産をモチーフにした「美原ふる里公園」や桜の名所「大池公園」など大小さまざまな公園が点在しています。

水と緑豊かな美原。その良さを活かしながら、さらに、快適に暮らせるまちをめざし、新しい生活基盤整備をすすめていきます。



緑とのふれあいの場である舟渡池公園

美原ふる里公園

美原町の公園

美原町には、大小さまざまな公園が60箇所あります。その代表といえるのが次の2つの公園です。

舟渡池公園

本町の最初の都市計画公園として、昭和57年4月1日に開園し、同年8月13日には、総合的なレクリエーション施設を備えた総合公園に都市計画変更を行い、現在約2ヘクタールが供用開始されています。

また、公園北側に本町最大のため池である舟渡池があり、多くの野鳥が観察できるほか、四季折々の風景が楽しみ、来園者に憩いと潤いを提供しています。

美原ふる里公園

歴史ゾーン整備基本構想を踏まえながら、美原町の歴史・文化の保存と継承、及び緑豊かな安らぎと潤いを感じる憩いの空間として、平成7年度から事業着手し、平成10年4月1日に開園した歴史公園です。公園内には、河内鑄物師をモチーフとして鑄物を使用した施設（美はらの噴水・刻の丘・エントランスゲート）を設置しています。

また、公園名称は公募により決定し、美原の文化・歴史のふる里、河内鑄物師のふる里、及び住民のふる里を表しています。

美原の子どもたちが心豊かにのびのび、たくましく育つよう、学校施設や教育体制の充実を図るとともに、地域教育協議会など住民のみなさんと一体となつて教育環境の向上に取り組んでいます。

さらに、世代間交流の機会の提供や生涯学習社会づくりに向けて、地域社会と連携を図るとともに、「中央公民館」や「美原総合福祉会館」、「みはらマナビスト館」などの活動拠点となる施設の利用を促進し、その活動を支援しています。

いっしょうけんめい走る
マラソン大会



子どもたちも
楽しみにしている
移動図書館の巡回



豊かな心を培い

美原を愛する人をはぐくむまちをめざして

東大寺サミット'98 in みはら

東大寺の造営や再建等で歴史的なつながりをもつ15市町村が集い、地域の発展と友好連帯を深めるとともに、それぞれの歴史と文化を生かした個性豊かな地域づくりを推進することを目的に、平成3年10月に奈良市で第1回目のサミット会議が開催されました。そして、平成10年10月には第8回目のサミット会議が美原町で開催され、東大寺をはじめ関係市町村の方々が参加のもと、「地域を越えて響きわたる人々の躍動～みんなで取り組む分権時代のまちづくり」をテーマに意見交換が行われました。また、河内鑄物師発祥の地、美原ふる里公園で記念植樹も行われました。



みはら芸術展

芸術活動をしている方々の発表の場や交流の場を設け、芸術文化に対する意識の向上を図ることを目的に平成8年度に初めての試みとして、町主催の芸術展を開催しました。翌年度から町内の芸術愛好家などによって、実行委員会を組織し、自ら企画・運営をして、内容の充実した「みはら芸術展」を毎年秋に開催しています。また、応募部門は、洋画・写真など7部門で、毎年、140点余りの出展数があり、4日間の開催で延べ1,000人を超える鑑賞者が訪れ、作品の応募や鑑賞を通じて住民相互の交流が図られ、住民の方々に好評をいただいています。



生涯を通して健康で安心して



「おーい」「こんにちはー」



だれもが、いつでも、どこでも必要とするサービスを利用できるまちをめざして



暮らせるまちをめざして

自分たちでつくる、
みはら保健福祉まつりステージ



子どもからお年寄りまで
楽しみながら健康を考える

みはら健康フェスティバル 歯！もっと健康に

「お口あけて アーン」



保健・医療・福祉

美原町では、赤ちゃんからお年よりに至るすべての人が健康で安心して暮らせるまちをめざして、さまざまな活動を行っています。少子高齢社会に向けて、「自分の健康は自分で守る」をモットーとして、病気の予防と早期発見・早期治療を促す「住民基本健康診査」や各種健康づくりへの取り組みはもとより、世代間の交流を深め、みんなで健康と福祉について考える「みはら保健福祉まつり」を実施しています。「だれもが、いつでも、どこでも必要とするサービスを利用できる」を基本に、総合的に受けられる保健・医療・福祉サービス提供システムづくりを推し進めています。



史跡・文化財の多い美原町では、貴重な歴史的文化遺産を災害から守る仕事も重要です



美原町では、災害に強く安全な都市空間を形成するために、都市基盤の整備や防災対策の強化を行い、万一の災害や事故に速やかに対応できる、広域的な救急医療体制の層の充実を図っています。また、住民の防災意識の高揚や啓発活動を促すとともに、消防団や婦人防火クラブなどの防災組織を育て、消防と行政が一体となって、防災、災害への対応ができるよう、各種施策に取り組んでいます。

美原町には、先人たちが守ってきた史跡・文化財が、数多く存在しています。これらの貴重な歴史文化遺産を未来に伝えていくために、町ではこれらを災害から守り、そして保存していくことに力を入れています。

時代	名称	内容
昭和7年(1932) 9月20日	消防組の結成	平尾村消防組、黒山村消防組、丹南村消防組がそれぞれ結成、消防組員数130名、手引ポンプ、動力ポンプ3台。
昭和31年(1956) 9月30日	3ヶ村合併により町制施行	黒山村、平尾村、丹南村の3ヶ村合併して町制を施行し、大字を廃止、町名を美原町とする。消防団は1団3分団
昭和49年(1974) 4月1日	消防本部、消防署の設置	美原町消防本部、美原町消防署設置。消防長以下30名(定数34名)の消防職員、消防ポンプ自動車、水罐付消防ポンプ自動車、指令車各1台、救急車2台、消防無線
7月20日	消防庁舎完成	消防庁舎完成。
昭和52年(1977) 3月9日	防火協会創設	美原町防火協会創設、会員数347会員。
昭和61年(1986) 5月26日	美原婦人防火クラブ創設	美原婦人防火クラブ創設、クラブ員82名。
平成7年(1995) 11月27日	新庁舎に移転	消防本部、消防署、新庁舎で業務開始。
平成8年(1996) 2月1日	緊急通報システムの導入	美原町福祉課と共同で、ペンダント型の緊急通報システムを導入。
平成16年(2004) 12月25日	新消防団詰所開所	3分団が新消防団詰所で業務を開始

火事・災害現場を想定し、常に訓練をくり返す消防隊員

保育所の子どもたちにもやさしく伝える安全・防災



自然と共生し
安全でやすらぎのある
まちをめざして

●緊急避難場所一覧

美原一時避難地	所在地
平尾小学校	平尾360
北小学校	大保19
八上小学校	大饗117-1
黒山小学校	阿弥93
西小学校	太井548
さつき野小学校	さつき野東1-6-1
美原中学校	小平尾390
西中学校	大饗102-2
さつき野中学校	さつき野西2-6-1
青少年運動広場	多治井878-3
みの池運動広場	阿弥377-1
中央公民館	黒山167
総合体育館	多治井878-1
勤労青少年ホーム	阿弥377-1
舟渡池公園	阿弥131-3
大池公園	小寺12-1
みはら大地幼稚園	菅生587
美原海洋センター体育館	阿弥377-1
みはら健康推進センター	黒山782-11
美原総合福祉会館	黒山782-10
さつき野運動広場	さつき野西2-1474-70
さつき野公園	さつき野西2-3-1、3-5
美原ふる里公園	大保27、他

地域に調和し 活気に満ちた産業のあるまちをめざして

平成の「竹内街道」、南阪奈道路の開通で、美原町は、近畿を縦横に走る高速道路網の中心として、大きな注目を集めています。地場産業である木材の二次加工を中心とした木材工場団地、家具などの木製品を製造する家具団地をはじめ、鉄鋼・金属業を中心とした工場・事業所に加え、さまざまな製造業や郊外型商業施設なども進出してきています。かつての町の基幹産業であった農業や、植木を主とした園芸は、好アクセスな立地条件を活用して、活性化に取り組んでいます。

広大な土地にひろがる大阪木材工場団地



大阪木材工場団地協同組合
理事長 高島 正一

半世紀近く前、山とため池しかなかった美原町に誘致され、新しい工場をつくるだけでなく、下水道・道路整備・緑化事業など協同組合の自力によりインフラ整備をしてきました。

今では木材工場団地として木材加工から流通まで同業多種のさまざまな企業が集まり、団地内友好企業も含めると130社4000人以上が集結しています。今後、堺市との合併をチャンスととらえ、「ものづくりプロ集団」として、木材利用を特長とする産・官・学連携による近畿の「シリコンバレー」というべき存在をめざしたいと考えています。

ひと・みはら



契約店舗の改修や団地の作りつけ家具などを扱う企業が多い家具団地



約40年間、3代にわたって手入れされた松

美原造園事業協同組合は植木養成のプロ集団として確固たる地位を築いています



農家の半数以上は自給的農家



美原町の農業は、かつてはまちの基幹産業となっていました。今では全国的な傾向と同じように専業農家中心から兼業農家へと変化した、農家は減少してきています。しかしながら、近年においては、本町のもつ立地条件から都市型近郊農業として、近隣消費者から、ナス・ハクサイ・キャベツなどの野菜栽培がその新鮮さ、品質の高さで好評を得ています。そうしたなか、生産者自ら実りの秋を喜ぶとともに、広く町民に対し農業への理解と認識を高めるため、JA大阪南が中心となり毎年美原町農業祭が開催されています。内容として、とれとれ野菜などの展示即売会、新米コーナー「米消費拡大運動」、農業相談会などが行われています。

